

ICT を活用した中学校保健体育科の授業づくり

—iPad を用いた柔道の授業実践を通して—

桂原幸世 (M18EP003)

1. 研究目的と背景

1-1. 目的設定の背景

まず、筆者自身が受けてきた中学校体育科の授業では、基本動作を重点的に身に付けるものではなく、実践重視の授業であった。そのため、基本動作の習得に差を生む原因となっていた。そこで、運動量を確保しつつ、しっかりと基本動作の技術指導を行うことができる方法を考えるようになった。

平成 29 年度告示中学校学習指導要領保健体育編には、保健体育科の知識の内容において、「運動観察の方法では、自己の動きや他者観察などの方法があることを理解できるようにする」とあり、ICT を活用する事例が挙げられている。このような学習指導要領の動向の下、文部科学省 (2017) は、「平成 30 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針 (通知)」において、「2018 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針」を取りまとめるとともに、「教育の ICT 化に向けた環境整備 5 か年計画 (2018～2022 年度)」(図 1) を策定した。この方針では、必要な経費については、2018～2022 年度まで単年度 1805 億円の地方財政措置を講じることとされている。これらのことから、これからの保健体育科を含めた全教科において、ICT を活用した授業改善が求められているといえるだろう。

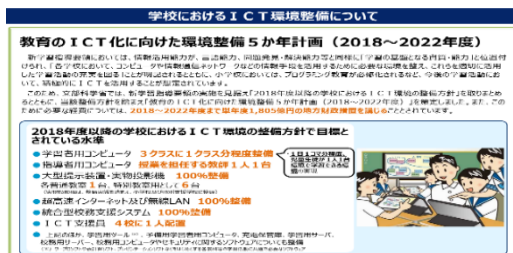


図 1. 2018 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針で目標とされている水準

1-2. 研究目的

昨年度、筆者は屋外種目 (ソフトボール) で実践を行った。この実践から中学校保健体育科における ICT の活用について、様々な長所や課題が明らかとなった (桂原, 2019)。そこで、2 年目の本研究においては、昨年度の実践で明らかとなった長所や課題をもとに、様々な単元に合った ICT の活用を効果的に実践する際に心がけるべきことを明らかにすることとした。

2. 先行研究

これまでの保健体育科において様々な実践が行われている中で、ICT を活用した授業が有効であることは明確である。

山室 (2016) は、ICT 機器を使った器械運動 (マット運動) の授業において、以下の 3 点が主体的な学習を促している述べている。

- ①模範映像の活用により、ポイントを発見させ、理解を深めることができる。
- ②模範映像と自分の動きを撮影した映像との比較を行うことによって、細かな動きの違いを発見することができる。また、そのことがより高い技能の習得を目指す意欲に繋がり、主体的な課題解決学習を促すことができる。
- ③自分の練習前と練習後の映像を比較することにより、上達点が明確になり、学習意欲を高めることができる。

また、松木・加藤 (2019) は、中学校で ICT 機器が活用された運動領域の割合について、器械運動系 27.4%、球技系 24.2%、武道系 16.1%、体づくり運動系 8.1%、表現運動系 8.1%であったと報告している。中学校での ICT の活用場面とその割合に関しては、活動提示場面 (ICT 機

器を利活用して教師から学習者に映像を使って情報を提示する)では31.3%,問題解決場面(ICT機器を活用して問題解決に取り組むでは、評価とセットで行われるが、即時的に活用されるものは問題解決場面として考えることとする)では60.6%,評価場面(ICT機器を活用して教師または学習者が学習成果を確かめるための検証)では8.1%であった。さらに、ICTの活用場面における具体的な活用方法の割合を見ていくと、活動提示場面では、「示範(見本)を提示する」43.9%,「動き(技)のポイントを提示する」36.4%,問題解決場面では、「動きを振り返って課題を明確にし、改善する」55.6%,「示範(見本)を提示する」23.1%,評価場面では、「学習成果を記録し蓄積する」42.9%,「学習成果を統合しまとめる」42.9%であった。これらのことから、以下のようなICTの活用が効果的であると示唆している。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①視覚的な効果による授業マネジメントでの効率的な活用ができること②的確な自己観察が可能となり、課題を自分事として捉えさせる活用ができること③自分の動きや再現不可能な動きが必要なときに確認できること④学習で得られたデジタルコンテンツに、新たな情報(ポイントや学習成果)を追加し、全体で共有できること |
|---|

3. 1年目の研究概要

この章では、桂原(2019)の昨年度の実践研究の概要を述べる。

3-1. 筆者が考えた保健体育科におけるICT活用のメリット

- ①実技における能力の向上
- ②コミュニケーションの円滑化
- ③言語活動が苦手な生徒への配慮
(インクルーシブ教育の視点)
- ④様々な単元の共通点の共有
(単元の見方・考え方)

3-2. 保健体育科における4つのICTの活用パターン

<活用方法のパターンA>

教師が、単元ごとに目標とする姿の情報を与えるツールとする。視覚情報として手本を提示し、動作のイメージをつかむために活用する。

<活用方法のパターンB>

生徒が、自らの動作を動画で見て、個人の動作の確認(メタ認知)を行い、動作の振り返りをするために活用をする。

<活用方法のパターンC>

生徒が、自分や他者の動作を動画で見て、他者からの意見を共有(フィードバック)し、情報の共有をするために活用する。

<活用方法のパターンD>

教師が、グループワークの効率化を図り、コミュニケーションを円滑化し、情報の共有を活発化させる。生徒は、様々な意見を聞き、学びを深める際に活用する。

3-3. 1年目の授業実践で得られた活用方法のパターン別の成果と課題・改善点

<活用方法のパターンA>

「生徒にとって身近な存在である教師が動画を作成し提示することで興味関心を引くことができた」、「動画を見ながら練習をすることで技術の向上につながったと感じる」などの意見が多かったため、活用パターンAでは成果が多く得られた結果となった。

<活用方法のパターンB>

「撮った動画を自分自身で見返すことで、苦手な動作が明確になった」、「自分の弱点を把握することで教師や仲間に積極的に質問したり、その部分を重点的に練習したりすることができ、練習の質が向上した」などの意見が多かったため、活用方法のパターンBでは成果が多く得られた結果となった。

<活用方法のパターンC>

「50分の中で意見共有を行う場面を作るときには、その場で共有してほしいポイントを教師が生徒にしっかりと分かりやすく明示する必要がある」、「各単元で覚えるべき専門用語を生徒たち同士で積極的に使うためのワークシート等の開発も必要」など、活用方法のパターンCでは課題や改善点も残る結果となった。

<活用方法のパターン D>

「学校の ICT の実態を把握した上で活用できる方法を考えていく必要がある」、「できるだけ少人数で活動ができるような環境づくり求められる」など、活用方法のパターン D では特にハード面における課題や改善点が残る結果となった。

4. 今年度の実践研究

昨年度のソフトボールに関する実践研究の成果や課題・改善点を踏まえ、今年度は柔道における ICT の活用に関する実践研究を行った。

4-1. 実践対象の学校・生徒

山梨県内の公立 N 中学校

1 年生 63 名（男子 30 名，女子 33 名）

2 年生 62 名（男子 25 名，女子 38 名）

4-2. 生徒の実態

生徒の体育の授業や柔道に対するイメージや ICT の活用の経験，興味関心等について事前アンケートを行った。調査対象者のうち欠席者がいたため 116 名のみ回収できた。

4-3. 「保健体育科の授業に関する質問」結果

問 1. 保健体育科の授業は好きですか。

好き	44.0%
どちらかといえば好き	31.9%
どちらともいえない	12.9%
どちらかといえば嫌い	8.9%
嫌い	2.6%

問 2. 保健体育の授業は得意ですか。

得意	19.8%
どちらかといえば得意	31.0%
どちらともいえない	29.3%
どちらかといえば苦手	9.5%
苦手	10.3%

保健体育の授業が「好きまたは、どちらかといえば好き」と答えた生徒が全体で 75.9%と高い割合であったのに対して、保健体育の授業が「得意または、どちらかといえば得意」と答えた生徒は、全体で 50.8%と低い割合であった。

4-4. 「柔道に関する質問」結果

問 1. 「柔道」を実際の試合やテレビで見たこと

がありますか。

見たことがある	65.5%
見たことがない	34.5%

問 2. 「柔道」やったことがありますか。

経験したことがある	43.1%
経験したことがない	56.9%

※1 年生については、「経験したことがない」が 100%であった。2 年生についても、保健体育の授業以外での経験者はいなかった。

4-5. 「ICT に関する質問」結果

問 1. スマートフォンやタブレットを使用したことがありますか。

使用したことがある	96.6%
使用したことがない	3.4%

問 2. ICT という言葉を知っていますか。

知っている	31.0%
知らない	68.1%

日常的にスマートフォンやタブレットを使用している生徒が非常に多く、ICT を使い慣れている様子がわかった。「ICT という言葉を知っている」と回答した生徒の多くは、1 年生では「テレビ番組」で、2 年生では「社会科の授業」が挙げられた。

4-6. 「ICT を活用した授業の経験の有無についての質問」結果

問 1. iPad やタブレットを使った授業を経験したことがありますか。（昨年度の実践を含む）

経験したことがある	85.3%
経験したことがない	14.7%

調べ学習やプログラミング学習において、ICT を活用したと回答する生徒が多かったため、総合的な学習の時間が一番多い結果となった。しかし、全体的に教師が授業の中に ICT を取り入れている教科は少ない結果となった。

4-7. 「ICT を活用した保健体育の授業への興味関心や考え方についての質問」結果

問 1. iPad やタブレットを使った保健体育の授業に興味はありますか。

興味がある	43.1%
どちらかといえば興味がある	27.6%
どちらともいえない	24.1%

全く興味がない	4.3%
---------	------

問 2. iPad やタブレットを使った保健体育の授業をやってみたいと思いますか。

そう思う	45.7%
どちらかといえばそう思う	25.0%
どちらともいえない	21.6%
どちらかといえばそう思わない	2.6%
そう思わない	4.3%

問 3. iPad やタブレットを使って、保健体育の授業で学習する技術が向上すると思いますか。

そう思う	44.8%
どちらかといえばそう思う	30.2%
どちらともいえない	22.4
どちらかといえばそう思わない	0%
そう思わない	2.6%

iPad やタブレットを活用した保健体育の授業に興味関心を示し、技術向上にもつながると回答した生徒が多かったが、「どちらともいえない」の回答もあり、具体的な授業のイメージがわいていない生徒が多数いたことが予想できた結果となった。

事前アンケートの結果から、生徒の実態は以下のようにまとめられる。

・保健体育科の授業を好きだと感じる生徒が多数いた。 ・柔道の経験者はいない。（ただし 2 年生は、昨年の授業で経験している） ・日常的にスマートフォンやタブレットを使用している。 ・ICT を活用したと保健体育科の授業を経験している生徒は少なかった。 ・ICT を活用した保健体育科の授業に対しては、興味関心を示す生徒が多かった。

5. 実践での検証

5-1. 実践期間

実践期間は、2019 年 11 月 5 日～11 月 25 日の約 3 週間行った。8 時間の授業を 4 クラス、合計 32 時間を担当させてもらった。筆者が授業者を担当し、N 中学校の保健体育科担当教員とチームティーチングを行った。

5-2. 使用した ICT (iPad) の台数

実習校の iPad を 2 台に、大学備品の 6 台の iPad を加えた計 8 台を使用した。

5-3. 単元の概要

F 武道「柔道」

平成 29 年度告示中学校学習指導要領保健体育編によると、武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことの運動である。武道は、中学校で初めて学習する内容であるため、基本動作と基本となる技を確実に身に付け、それらを用いて、相手の動きの変化に対応した攻防を展開することが求められている単元である。

知識及び技能の柔道では、「相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすること」と記述されている。

5-4. 単元計画

1 学年は、受け身 4 時間・固め技 3 時間、投げ技 1 時間、まとめ（評価）2 時間（表 1）、2 学年は、受け身 3 時間・固め技 3 時間・投げ技 2 時間、まとめ（評価）2 時間（表 2）で単元を構成した。

表 1：第 1 学年柔道単元計画

	本時の課題
1	柔道に関する知識を増やそう（オリエンテーション）
2	自分の体を守るための手段を身に付けよう Part1【横受け身・後ろ受け身基本編】
3	自分の体を守るための手段を身に付けよう Part2【横受け身・後ろ受け身応用編】、【前回り受け身基本編】
4	自分の体を守るための手段を身に付けよう Part3【前回り受け身応用編】
5	抑え込みの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】

6	抑え込まれたときの逃げ方を覚えよう【ブリッジ】
7	袈裟固めや横四方固めを使って、寝技の攻防をしよう【柔道のまとめ①】
8	取と受の役割を理解して、相手を体落として投げよう【柔道のまとめ②】

表 2：第 2 学年柔道単元計画

	本時の課題
1	柔道に関する知識を増やそう（オリエンテーション）【横受け身・後ろ受け身基本編】
2	自分の体を守るための手段を身に付けよう Part1【横受け身・後ろ受け身応用編】、【前回り受け身基本編】
3	自分の体を守るための手段を身に付けよう Part2【前回り受け身応用編】
4	抑え込みの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】
5	抑え込まれたときの逃げ方を覚えよう【ブリッジ】
6	袈裟固めや横四方固めを使って、寝技の攻防をしよう
7	取と受の役割を理解して、相手を体落として投げよう【柔道のまとめ①】
8	取と受の役割を理解して、相手を小内刈りで投げよう【柔道のまとめ②】

5-5. 事前準備

5-5-1. ワークシートの作成

実習校の保健体育科教師が普段の授業で活用しているワークシートの形式を使用した。「本時の目標」と「振り返り」を記述させるようにした。(図 2)

「柔道」個人学習カード

年 組 番 氏名 ()

①	<今日の目標>	②	<今日の目標>
月		月	
日		日	
()		()	
③	<今日の目標>	④	<今日の目標>
月		月	
日		日	
()		()	
⑤	<今日の目標>	⑥	<今日の目標>
月		月	
日		日	
()		()	
⑦	<今日の目標>	⑧	<今日の目標>
月		月	
日		日	
()		()	

図 2. 実践で活用したワークシート

5-5-2. 単元の評価表の作成

授業のまとめで活用するために作成した。生徒たちが積極的にコミュニケーションを取り、授業に取り組めるような場面を設け、柔道の技能評価を教師や複数の仲間にしてもらい、技の習得状況の確認をさせた場面を設定した。(図 3)

武道（柔道）取り組み表（評価表）

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

○ 柔道の技能評価を先生、または同じグループの仲間（複数）に評価してもらいます。
○ 一度評価してもらった後でも、3 回までチャレンジすることができます。

【必須項目】

	評価標準	月 日 () 月 日 ()			
		評価	評価者	評価	評価者
準備のめ	準備に遅れてもよいが、迅速に準備をすることが出来る。 A. 自分や他人の準備に遅れることが出来る。 B. 自分や他人の準備に遅れることが出来る。 C. 自分や他人の準備に遅れることが出来る。				
受	受の役割を理解して、相手を体落として投げよう【柔道のまとめ①】				
後ろ受け身	A. 後ろ受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 B. 後ろ受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 C. 後ろ受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】				
横受け身	A. 横受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 B. 横受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 C. 横受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】				
前回り受け身	A. 前回り受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 B. 前回り受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 C. 前回り受け身の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】				
固	固め技の条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】				
けき固め	A. 袈裟固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 B. 横四方固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 C. 横四方固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】				
横四方固め	A. 横四方固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 B. 横四方固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 C. 横四方固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】				
ブリッジ	A. 横四方固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 B. 横四方固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 C. 横四方固めの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】				
投	投の役割を理解して、相手を体落として投げよう【柔道のまとめ②】				
体落とし (1.5 年未満)	A. 体落しの手順を覚えて、相手を体落として投げよう【柔道のまとめ②】 B. 体落しの手順を覚えて、相手を体落として投げよう【柔道のまとめ②】 C. 体落しの手順を覚えて、相手を体落として投げよう【柔道のまとめ②】				
小内刈り (1.5 年未満)	A. 小内刈りの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 B. 小内刈りの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】 C. 小内刈りの条件を覚えて、逃げられない固め技を習得しよう【袈裟固め・横四方固め】				

図 3. 実践で使用した評価表

5-5-3. 単元の用語集・ICT の活用に関する説明プリントの作成

昨年度の実践で「iPad の動画の音声とうまく聞き取ることができない」などの生徒からの意見を聞き、いつでも単元の重要語句が確認できるようなプリントを作成した。



図 4. 実践で活用した単元用語集・ICT の活用に関する説明プリント

5-6. 実践における ICT (iPad) の活用場面と活用の様子

基本動作の説明動画に関しては、授業内に生徒が教師の動きを撮影し作成する方法を採用した。自由に活用させる場面では、昨年度と同様の方法で行った。

- ①教師の基本動作の説明を撮影係が撮影する場面（活用方法のパターン A に関連）（図 5）
- ②グループで撮影した基本動画を見て、練習を行う場面（活用方法のパターン A に関連）（図 6）
- ③グループごとに撮影した動画を見たり、自分や仲間の動きを撮影したりして様々な方法で ICT を活用しながら練習をする場面（活用方法のパターン B, C, D の関連）（図 7）



図 5. 教師の基本動作の説明を撮影係が撮影する場面



図 6. グループで撮影した基本動画を見ている場面



図 7. グループごとに ICT を活用しながら練習をする場面

6. 事後アンケート結果

事後アンケートは、以下のような質問項目で行った。欠席者がいたため、回収は 109 名であった。

質問 1

ICT (iPad) を活用した保健体育の授業をしてみてよかった点について

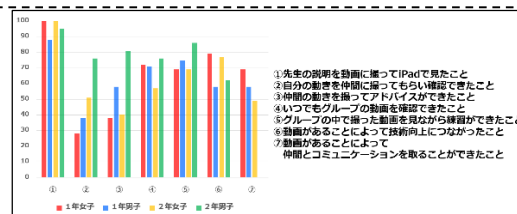


図 8. 質問 1 の結果

質問 1 では、全体的にどの項目においても高い割合であった。「①先生の説明を動画に撮って

見たから」が 96%と一番多く、続いて、「④いつでもグループの動画を確認できたこと」が 73%と 2 番目に多い結果であった。このことから、ICT (iPad) を使って練習を行い、技術向上につながったと感じる生徒が多かったといえる。

質問 2

ICT (iPad) を活用した保健体育の授業をしてみて感じたマイナス点について

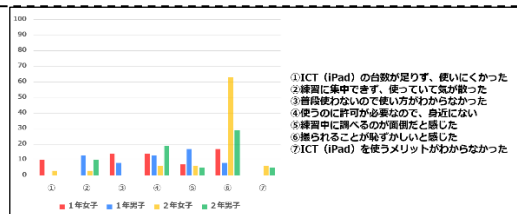


図 9. 質問 2 の結果

質問 2 では、全体的にどの項目においても低い割合であった。しかし、2 年女子で「⑥撮られることが恥ずかしいと感じた」という割合が高い結果となった。

質問 3

実際に授業で ICT (iPad) を使ってみて、どう思ったかについて

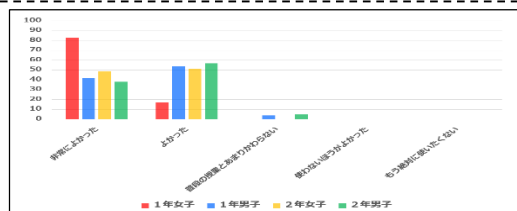


図 7. 質問 3 の結果

質問 3 では、授業内での ICT (iPad) の活用において、98%の生徒が肯定的に感じていることがわかった。(図 7) また、「使わないほうがよかった」、「もう絶対に使いたくない」と回答した生徒はいなかった。

質問 4

柔道の基本動作が上手にできるようになった理由について

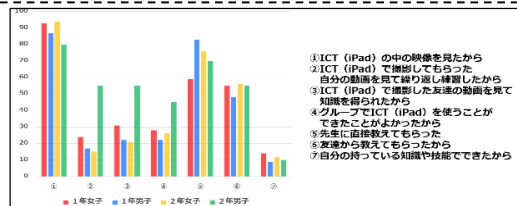


図 10. 質問 4 の結果

まず、この柔道の授業をして、基本動作がで

きるようになったという生徒は 97%であった。

その理由として、質問 4 では、「①ICT

(iPad) 中の映像を見たから」が 87%と一番多い結果となった。昨年度の結果と比較すると 22 ポイント増加した。続いて、「⑤先生に直接教えてもらったから」が 70%と 2 番目に多かった。その一方で、「②ICT (iPad) で撮影してもらった自分の動画を見て繰り返し練習したから」や「③ICT (iPad) で撮影した友達動画を見て知識を得られたから」の割合は、3 割程度であった。

7. 活用方法のパターン別の考察

7-1. 活用方法のパターン A の考察

成果として、「教師の説明動画を撮って見たことで基本動作をしっかりと身に付けることができ、技術向上につながった」や「いつでも何回でも自分のタイミングで動画を見て技のポイントを確認できた」などが挙げられた。

課題・改善点としては、「ICT (iPad) を使うことで活動時間が減ってしまうと感じている生徒に対して、基本動作をしっかりと身に付けることで、実践練習での効率が上がることを理解させるべきである」などが挙げられた。

7-2. 活用方法のパターン B の考察

成果として、「自分の弱点を知ることができ、その部分を重点的に練習することができた」や「自分の動画と教師の説明動画を比較して学ぶことができた」などが挙げられた。

課題・改善点としては、「保健体育の授業以外にも、自由に動画を見ることができるよう環境の設定」や「撮られることに抵抗がある生徒には、ICT の活用を生徒が自ら選択できるようにする必要がある」などが挙げられた。

7-3. 活用方法のパターン C の考察

成果としては、「上手な仲間の動きをよく観察し、技術向上ができた」や「怪我をしてやむを得ずに見学しなければならない場合でも、ICT (iPad) があることによってグループワークに参加でき、授業に参加することができた」などが挙げられた。

課題・改善点としては、「なるべく授業内で振

り返しをして意見共有を活発に行うことが重要であることに加えて、そのような授業を継続して行うことが大切である」などが挙げられた。

7-4. 活用方法のパターンDの考察

成果としては、「基本動作の習得でグループワークを積極的に取り入れICTを活用することにより、実践練習で誰と組んでも差がなく安全に練習に取り組むことができた」や「グループで動画を見て、コミュニケーションを取ることができた」などが挙げられた。

課題・改善点としては、「保健体育科の授業においては運動量の確保が絶対条件であるが、グループで意見共有を行い、基本動作を十分に習得することが授業効率の向上につながることを伝えていく必要がある」などが挙げられた。

8. まとめ

活用方法のパターンAに関しては、基本動作の説明動画を作成し提示することに肯定的な生徒が多くいた。授業内に説明動画を作成する方法でも、十分に有効性を実感することができた。その一方で、基本動作を動画で確認すると、活動時間がなくなってしまうという意見もあったので、基本動作に重点を置いて授業を行うことの重要性を継続的に伝えていく必要があると感じた。

活用方法のパターンBに関しては、「自分の姿」と「教師の姿」を比較して、技術向上につながったと感じる生徒が多くいた一方で、「撮られることが恥ずかしい」と感じる生徒も積極的にICTを活用できるように環境を整えていく必要がある。そのことから、生徒一人ひとりが自分にあったICTの方法を見つけていくことも、「メタ認知」につながるのではないかと考える。

活用方法のパターンCに関しては、仲間にアドバイスをしたり、コミュニケーションを取ることに有効性を感じたりする生徒が比較的に少なかった。この形式の授業を継続して行い、仲間とのコミュニケーションを円滑にできるように声掛けを常にしていく必要があると感じた。さらに、怪我をして実技ができない生徒も積極的に授業に参加できる点において、非常に有効性

を感じられた。

活用方法パターンDに関しては、今回の実践では4～5名に1台のICT(iPad)を活用することができたため、グループワークを充実させることができたが、どんな環境であってもグループワークでのICTの活用を円滑に行うことができるように、今後、研究をさらに発展させていく必要がある。

その他の視点としては、ワークシートや用語集は、ICTの活用の手助けをするツールとなるが、具体的に記述した生徒は少なかった。教師がワークシートの活用の意図を生徒に伝え、生徒自身がしっかりと振り返るような指導を継続的に行っていくことが必要となる。

これらのことを踏まえて、昨年度の「ソフトボール」、今年度の「柔道」以外の単元におけるICTの活用を今後、継続して行い、ほかの単元においてより良いICTの活用を探究していきたい。

9. 参考文献

- ・松木友和・加藤謙一(2019) 体育科及び保健体育科授業におけるICT機器の効果的な利活用に関する基礎研究—文献調査をもとに—。『宇都宮大学教育学部教育実践紀要第6号』pp189-196.
- ・文部科学省『平成29年度告示中学校学習指導要領解説保健体育編』pp143-167
- ・文部科学省(2019) 学校におけるICT環境の整備について(教育のICT化に向けた環境整備5か年計画, 2018年度～2022年度)
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1422160.htm
- ・桂原幸世(2019) ICTを活用した中学校保健体育科の授業づくり。『平成30年度山梨大学教育学研究科教育実践創成専攻(教職大学院)教育実践研究報告書』pp105-112.
- ・山室勇二(2016) 保健体育科におけるタブレットパソコンを用いた授業実践—映像比較による主体的な課題解決学習への試み—。『福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第6号』pp87-94.